

◇ 観 光



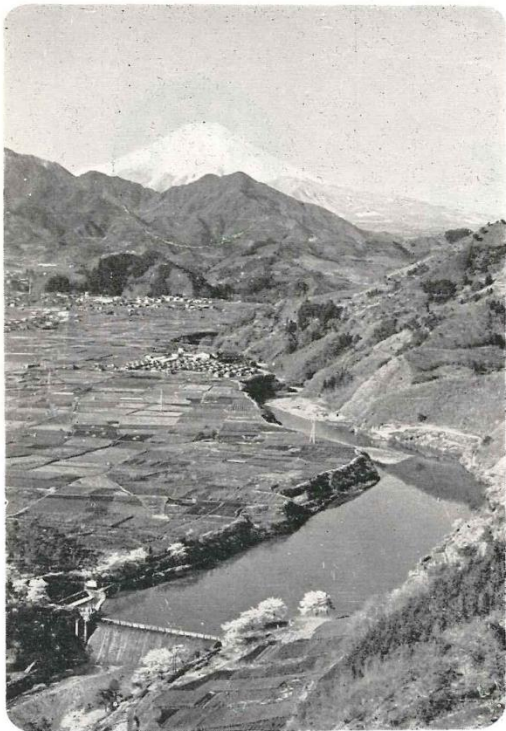
鹿留の桜 東桂駅から徒歩10分のところに東京電力鹿留発電所がある。この周囲から山の水槽に樹令50年をかぞえるもの数百本、県下でも有数の桜の名所である

川茂堰堤 禾生駅から徒歩で約5分のところに桂川を堰止めた川茂発電所がある。ここもまた鹿留の桜とともに桜の名所である。

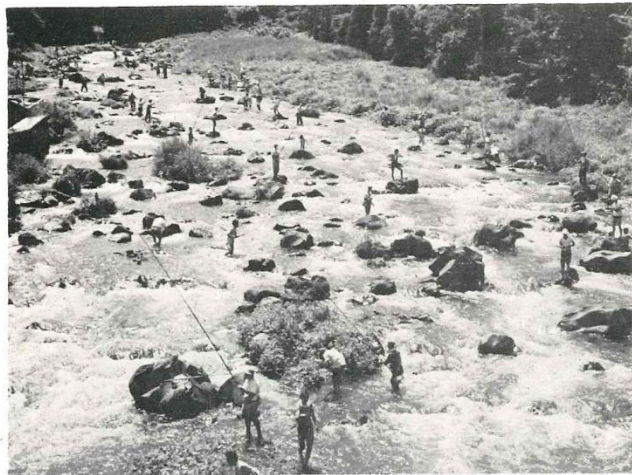
貯水池のまわりは桜の古木が並び花の季節のほか新緑に秋の紅葉も美しくとくに水面に映る逆さ富士はみごとである。



市民公園 鶴水園



あゆの解禁 市の中央を流れる桂川は「あゆ」「ます」「やまめ」の釣場として絶好である。毎年8月1日には、谷村町駅下の城南橋附近約100mの流域で花火をあいずにあゆ釣大会が行われる。あゆは琵琶湖産と海産を4月頃20万匹放流するが桂川の水温と清流は「あゆ」の生長に適し8月には約20cmの大物となりその味は天下一品である。

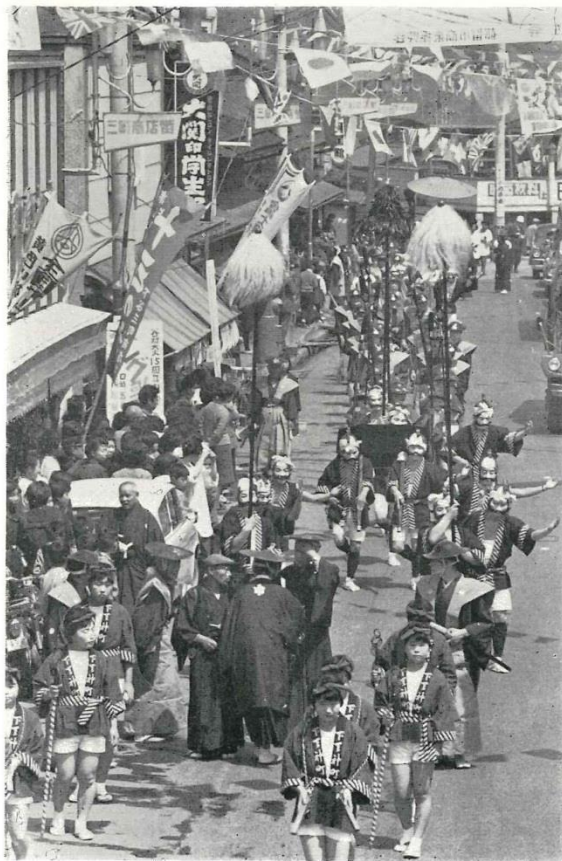


史跡名勝

勝山城跡 1594年(文禄3年)浅野佐衛門佐が城を築き寛永10年から秋元但馬守泰朝が在城3代までの74年間続いたが宝永2年秋元氏が川越に所替えとなつたため廃城となつた。

ここは桂川の深い峡谷を前に配し後に自然の山が続き天然の防備が備わっている。頂上からは市の中心部を一望することができ現在は「お城山」として春秋の行楽に家族連れで賑わっている。大正14年3月県の史跡として指定された。

八朔祭 各種例祭のうちで最も賑やかに行われるのが四日市場にある出生神社の例祭「八朔祭」で9月1日から3日間盛大に催される。氏子は数千人をかぞえ昔は主として農事にかかわる行事として発達し江戸中期の頃からは神輿と神楽で巡幸しこれを迎え奉仕する格式10万石の大名行列は古式にのつとり「下に、下に」と当時をしのばせ、またこれにくりだす屋台も豪華を極め各町は出し物を競い豊年を祝い祭に酔う市民と県外からの見物客とで街は大変な賑わいとなる。



八朔祭の大名行列



文化財の概要

先史遺跡が40カ所もあることが解つた、仏像や絵画は室町時代からの什宝として寺院の歴史を語り、そして市の文化を表している、本町下町から早馬町に保存されている八朔祭の屋台の引幕は、江戸中期の名作として豪華を謳われている。各地区にはその歴史の歩みを物語る石造物は路傍に民俗の笑いを残し、産業の沿革は治水にあらわれて、石橋、合掌型石橋は珍しいものとされ、こうして生活の知恵の中で市民の文化は創造されてきた。



龍虎梅竹画屏風 下谷 長生寺什宝、紙本彩色1双 狩野元信筆



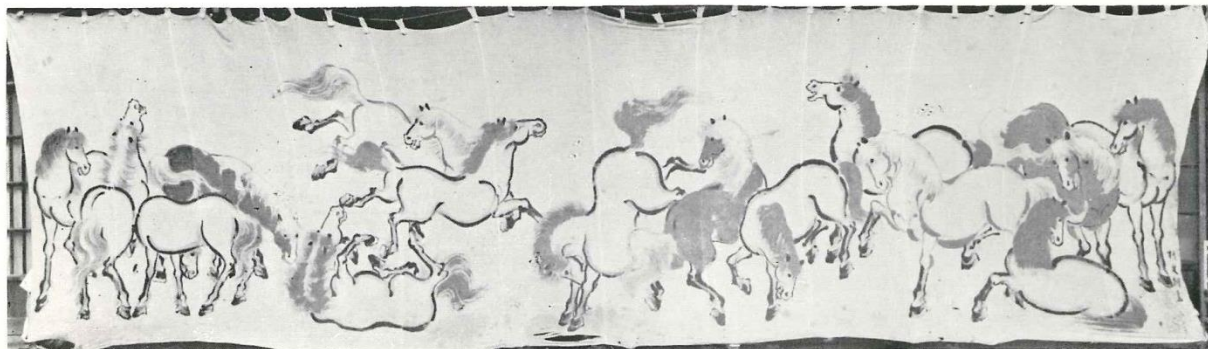
十六善神絵像 下谷 長生寺 什宝絹本彩色、宅磨派の筆になると伝えられる。永禄7年(1504年)高山文左衛門の寄進になるものと伝えられる



縄文式遺跡出土品 全長34cm 口径33cm 底部12cm 完全に近い出土品として珍らしく型式は加曾利EⅡ式に近いものである(法能)



先住民の石器と住居跡 旭小学校敷地から発見された石器遺跡は3,500年から4,000年の間のものと推定され縄文中期勝坂式に近いといわれている。現在発掘された石棒・石器物・石斧縄文土器破片等は旭小学校に保管されており昭和35年石器6その他土器片出土一括遺物が県から認定された。



八朔祭 うしろ幕 屋台の後幕であつて白ちりめん(白ちりめん)に裸馬15匹を雄々しく墨描したもので明治の馬の彫刻家後藤貞行を驚嘆させた逸品。文化年代の画家柳文朝作 2.15×7.20m(早馬町)